

想像力

とてき元氣よかつた人 最近近そ方でも

たささうに思ふ

人は皆年を年をとるかもしれずの

かつて私談放送局をにやっていた

その対象は私だつた

仕事と言つては 身は付古かろ

毎晩おそく ちかた電車に送られてくる

何をしていたら わかりやしな

千葉 権須賀の左の電車は おそくながる

メーカと送つてもうつていた

ちがった放送局かろ

河原 橋をたておえ

お一人で そんなことお出さる

たん厚かいこのよし

次から次 主役はいふおしい

その時は 好戯はもてあかつた

今 想像力がたかくないといふわかつた

新書 事実の碎穂と未だの時は 想像力木

大いなる物づく 二五の道のよさのむとつた

頭

苦いころは 畢竟おもしろくない 晴 想像力

が寝立つ なんて 思いもよらなかつた

今ごろは 存つて 気がつく 二とがある

いつか 世の 中の一とが 舞う わかろう

二とが多い

それども 平新 居か石をして 私だ

外へ ~~出~~ 出 身の び

千や 入 入 入 入 入 入 入

お目にかかろう たう

好感を 研つて 培して 研る たい

2022
9/23